

年度評価シート

課名 文化振興課

施設の名称 静岡科学館	指定管理者名 (公財) 静岡市文化振興財団
<p>1 履行状況</p> <p>業務仕様書及び事業計画書に従って概ね適切に履行されている。</p> <p>(1) 維持管理業務</p> <p>展示物をはじめ、空調設備、エレベーター、防火シャッター、券売機の保守点検、建築基準法に基づく遊戯施設、昇降機の定期点検及び館内清掃業務について、専門知識を有する第三者委託により実施し、各業務とも事業計画に従って適切に行われている。</p> <p>また、ダウンライト取替修繕等48件の修繕を適宜実施し、来館者が安全で快適に利用できるよう努めている。</p> <p>その他、消防設備、機械警備及び防火対象物定期点検等、ビルの管理組合が一括して行う保守点検業務について、管理組合と連携し適切に行われている。</p> <p>(2) 施設利用者数</p> <p>平成30年度の入館者数は245,951人(大人78,252人、小人167,699人)で、事務事業総点検表で設定した目標入館者数255,000人を9,049人下回り、達成率は96.45%に留まった。</p> <p>(3) 事業実施状況</p> <p>静岡科学館の特徴である参加体験型の展示物の利用促進や、来館者とコミュニケーションを図り、展示物の体験方法を解説する他、多くの集客が期待できる企画展や各種教室、ワークショップを開催するなど、事業計画に沿った事業を行っている。</p> <p>企画展「見たい！知りたい！つめた〜い世界 雪と氷のミュージアム」では46日間で50,420人が来場した。この企画展は、雪や氷を憧れの存在として捉えるのではなく、次に積雪や氷が張った際、雪国を訪れた際に、より楽しみ、雪害を避けられるよう、体験を通して学ぶ場を提供した。</p> <p>また、企画展の関連事業として9事業を実施した。来館者が写真をSNSに上げられるようにフォトスポット設置、ホッキョクグマのはく製展示、ピンポン玉を使った雪崩体験公演など、それぞれ違った趣向で講演会やワークショップが開催されており、様々な年齢層から科学技術に興味を持って、参加してもらえよう工夫がされていた。</p> <p>新規事業の「体験！プログラミングまつり」は、2020年度より学習指導要領に導入されるプログラミング教育の概要を市民、学校関係者に紹介する企画で、出版社、教材会社等による教材紹介や、専門高校のワークショップにより概要を伝えた。</p> <p>また、「る・く・る de オープン・ラボ」では、静岡県内の大学と連携し、科学の専門知識をわかりやすく市民に解説するなど、科学の研究機関の知見を活用することができた。</p> <p>「生涯学習センター連携事業」や「移動科学館」では、生涯学習センターの講座</p>	

や小中学校に職員が訪問し、科学への興味関心を高める活動を継続して行っている。入館者の来場を待つだけでなく、積極的に他施設との連携事業に取り組む姿勢は大変評価できる。今後も様々な団体との連携事業により、科学に親しむ市民層が厚くなることに期待する。

主な事業の参加者数は以下のとおり

- ① サイエンスショー(全19回) 5,484人(目標値:5,700人)
- ② わくわく科学工作(全22回) 4,501人(目標値:4,400人)
- ③ めばえのかがく (全20回) 2,010人(目標値:1,000人)
- ④ サイエンスフェスティバルinる・く・る2018
(3日間) 9,494人(目標値:7,500人)
- ⑤ 見たい! 知りたい! つめた〜い世界 雪と氷のミュージアム
(12/22~2/17 46日間) 50,420人(目標値:55,000人)
- ⑥ すごいぞ!静岡 (全9回) 1,418人(目標値:1,350人)

2 市民(利用者)からの意見・要望の内容とその対応状況の評価(クレーム対応等)

利用者からの意見・要望に対しては、概ね適切な対応がとられている。即時の対応が困難な要望に対しても前向きに検討しており、良好な対応がなされているといえる。

[具体的な意見・要望と対応状況]

〈職員の対応等に対する意見〉

利用者からの意見:

ちょっとしたアドバイスを頂けたことで楽しく体験できていましたので、もっとスタッフの方からの、ちょっとしたアドバイス(体験する上での)や、簡単な説明などをして頂けるとよりよいなと思いました。

対応:

科学館の理念「Hand-on」(体験型)を重視しながら、引き続き、職員による積極的な声掛けを行ない、体験支援のさらなる向上を目指したい。

3 市民(利用者)へのアンケートや満足度調査の状況評価

(1) 利用者満足度調査

事業に関するアンケート調査を実施している。「大変よかった」「よかった」との回答が96.8%と、市民の期待に応える事業の展開が図られていると言える。

(2) 市民アンケート

(公財)静岡市文化振興財団が指定管理を受託する文化施設等で実施している市民アンケートによると、静岡科学館の認知度は75%(平成29年度73.9%)、利用度は44.1%(平成29年度45.3%)であった。依然として高い認知度を得ており、広く施設が存在が知られていると言える。利用度は前年度とほぼ同数に留まったが、静岡科学館の利用者の多くが子どもであるので、他館を利用したアンケート記入者の年齢層と重ならないことが数値を下げている原因と考えられる。

(3) その他の調査

施設内に投書形式の「利用者の声」を設置し、施設利用者に随時、意見・要望や施設満足度について調査している。各項目の「満足」「やや満足」の回答率は下記のとおり

- ① 職員の応対 95.0%(前年度 86.3%)
- ② 清掃、整理整頓 95.6%(前年度 87.5%)

- ③ 案内表示、掲示板 92.6% (前年度 81.1%)
- ④ 開館日・開館時間 93.5% (前年度 83.3%)
- ⑤ 空調・音響・照明等 93.6% (前年度 82.3%)

「満足」「やや満足」と回答した人の割合が前年度以上の数値を示している。アンケート回答項目「ふつう」をやめたことによる数値の上昇は考えられるものの、高水準にあり満足できる結果と言える。今後もこの水準を保つために、日頃から職員一人ひとりが気持ちの良い応対と、良好な施設環境の維持に心がけて頂きたい。

また、平成30年度は合計3回の科学館運営協議会を開催し、外部からの意見・要望を積極的に取り入れる体制が整えられている。提言をもとにより良い施設運営となるよう取り組む姿勢は評価できるものであり、今後の事業計画及び個々の事業計画に指摘事項等が反映されることが期待される。

4 静岡科学館の経理状況の評価

静岡科学館の収支状況については、約435千円の黒字となった。この主な要因としては、利用料金収入が当初予算の収入見込より下回ったが、支出の経費削減によるものと考えられる。施設の更なる利用率向上による利用料金収入等の増と、支出の経費削減等を行うことを期待したい。

5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無

管理運営全般に関しては、事業計画に従い概ね良好に実施されている。また、指定管理者の決算収支の状況は良好である。

施設管理については、環境維持のための各種設備諸種点検業務や館内清掃業務など適切に実施されている。次年度以降も、経年による施設劣化や定期点検の結果などに留意し、適切な管理運営の継続を求める。

展示物においては、平成31年2月末に9階の「いきいきゾーン」に展示物3点更新をした。いつもと違った不思議な世界を体験でき、「光」と「音」の原理を学べる展示物であり、体験者が想像力、創造力を働かせることによって新たな発見ができる仕様となっている。展示物を広報するだけでなく、特製を活用し、来館者増につながる取り組みがなされることを期待する。

平成29年度試行し、平成30年度から新規事業として県内大学の研究室と連携し実施した「る・く・る de オープン・ラボ」は、大学の研究内容をわかりやすく市民に発信する場を創出し、地元大学の紹介に加え、中高生に対し科学に興味をもつ機会を提供した。

その他、ボランティアとして育成している「る・く・るナビゲーター」の活動も、定期的に行われており、多くのボランティアが誕生している。科学振興の担い手となる中高生や市民が育ってきており、静岡科学館が人材育成に取り組んできた成果であると評価する。

平成30年度の新規事業としては、令和2年度より学習指導要領に導入されるプログラミング教育の概要を市民、学校関係者に紹介する企画。出版社、教材会社等による教材の紹介、専門高校によるワークショップを実施し、指導者の育成を開始した。

また、静岡音楽館及び静岡市美術館との3館連携事業も2事業実施され、パイプオルガンの仕組みについて学んだあとに音楽館でのコンサートを鑑賞したり、企画展での科学技術を使用した美術作品の紹介など、科学、音楽、美術という各施設の特徴を活かした連携事業を実施したことで、来館者が各施設を相互に行き交い、静岡駅周辺の回遊性を生み出したことで、中心市街地のにぎわいの創出につながった。

広報活動について、新たに周辺ホテルにオリジナルグッズをプレゼントするクーポンを配布したり、県内の幼稚園、保育園、こども園の児童に配布されるクーポン冊子に同内容を記載したり、県中部地区にチラシを配布するなど新たな客層への周知に努めた。また、インスタグラムを開設し、SNSを活用した広報も行われた。今後も観光客や他市町村の住民に静岡科学館の情報発信を行うなど、積極的な広報活動を行い、来館者増につなげることを期待する。

広報活動が生きるような、展示の工夫や市民のニーズに応じた事業の展開、例えば未就学児とその家族が科学のおもしろさを体感できる展示物を設置など、未就学児とその保護者の利用拡大にも力を入れ、新たな利用層の拡大に努めてほしい。

※事務事故が発生したとき及びモニタリングにおいて改善の指導があったときは、必ず改善状況を記載すること。